

テンペリアウキオ教会 (Tempeliaukio Church, フィンランド)

ヘルシンキ市のエトゥ・トヨリョ地区の直径 35m の円筒形に花崗岩体をくり貫くようにして建てられた半地下式で、"岩の教会"として有名なテンペリアウキオン教会は、ティモ・スオラマイネンとトゥオモ・スオラマイネン兄弟によって設計され、1969 年に完成した。この教会の建築容積は 13,760m³ であり、このうち礼拝堂は 11,000m³ で、750 人を収容できる。

この教会の壁表面は、高さが 5~9m で、音響効果と意匠効果を考慮して岩盤を素堀りのまま使っており、天井付近は現地における採掘石がきれいに積み上げられている。良く見ると石積みの要所々々には鋼材でつなぎ合わされて、崩れ落ちないように補強してある。日本の城壁の石積みのような凡帳面さはなく、どちらかと言えば雑な感じのする石積みであるが、礼拝堂内部に入ったときの第一印象としては、赤みがかった岩肌の荒々しさや雑な石積みの自然物と、パイプオルガンや床や天井の人為的な工作物とが対照的で、両者が醸し出すコントラストがきれいである。天井は、高さが 13m で、吸音効果を考慮して、長さ 22m の細い銅板を独楽の紐のように渦巻状に巻き付けるようにして作られた直径 24m のドーム天井である。また、礼拝堂の後部には銅版で上張りされたバルコニーが張り出している。この天井部分は、鞍会外部の人の視線の高さからはほとんど見えないが、上空から遠自に見ると小高い丘に降り立った UFO のように見える。これは、教会という特殊性が大きく影響していると思われるが、設計者の斬新な構造物への取り組みには驚かされる。



写真-1(a) テンペリアウキオ教会の外観(フィンランド)

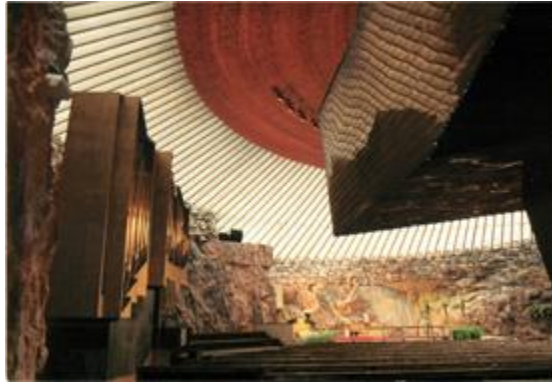


写真-1(b) 岩の教会の内観(フィンランド)